



# 水問題解決への 国際的な議論について

## 1. 世界的な課題である水問題

アジア地域においては、2011年に発生したタイでの大水害のほか、各地で大規模な水害や干ばつ、しかも、被害の程度が大きい水関連災害が頻発しています。もともと、アジアでは地域的な特性として、「多すぎる水（洪水）」、「少なすぎる水（干ばつ）」があるといわれていますが、近年では急速な経済発展と人口増加による「汚すぎる水（水質悪化）」という問題も

浮上しています。

アジア地域のさらなる経済発展と気候変動の影響により、水問題はますます深刻化するとされています。2011年のタイの大洪水で日本経済も影響を受けたように、もはや、水問題は一国のみで対応する課題ではなくなってきており、水問題は世界的な課題となっています。



アジアにおける主要な3つの水問題(洪水・干ばつ・水質悪化)

## 2. 2013年は「国際水協力年」



国際水協力年のロゴマーク

2010年12月の国連総会で、2013年を「国際水協力年」とすることが宣言されました。この国際年設置の目的は、

水管理が直面する課題や更なる協力の可能性について、人々の関心を高めることにあります。この目的を達成するため、水協力に関するハイレベル国際会議（タジキスタン；2013年8月）、ブダペスト水サミット（ハンガリー；2013年10月）など、水に関する多くの国際会議が開催されています。

また、今年の5月には、タイ王国のチェンマイに

において「第2回アジア・太平洋水サミット；水の安全保障と水災害への挑戦：リーダーシップと責任」が、タイ王国政府およびアジア・太平洋水フォーラムの主催により開催されました。このサミットには、日本をはじめ、アジア太平洋地域各国の首脳級・閣僚級、国際機関の代表等が集まり、洪水・干ばつの

防止を目的とした災害対策、水の効率利用など幅広いテーマの議論が行われ、成果として「チェンマイ宣言」が取りまとめられ、防災の主流化、知識の共有、総合水資源管理の促進、国際協力等を行っていくことが確認されています。



第2回アジア・太平洋水サミットの様子

### 3. 2015年は節目の年

開発分野における国際社会共通の目標であるミレニアム開発目標 (MDGs ; Millennium Development Goals) の中で、国際社会が達成すべき8つの目標が掲げられています。また、国際的な防災・減災の枠組として第二回国連防災世界会議で合意された「兵庫行動枠組み」(HFA ; Hyogo Framework for Action) がありますが、これらの目標年が2015年までとなっています。国際社会はMDGsの達成のため、また、HFAに基づきたくさんの取り組みが行われていますが、2015年以降の新たな枠組みとなる「ポスト2015枠組み」につ

いての議論も始まっています。

とくに、2012年の国連持続可能な開発に関する会議(リオ+20)において、すべての国を対象とした持続可能な開発目標(SDGs ; Sustainable Development Goals)を策定し、ポスト2015年開発アジェンダに統合することが合意されています。この動きを受け、ブダペスト水サミットにおいて2015年以降の開発目標における水に関する目標についても議論されています。なお、2015年3月に第3回国連防災世界会議が仙台市で開催されることが決まっており、ポストHFAについて合意される見込みです。

### 4. NARBO を通じての国際貢献

アジア地域における総合水資源管理の普及促進を図るために、当時の水資源開発公団(現水資源機構)、アジア開発銀行、アジア開発銀行研究所の発意のもとに2004年に設立したアジア河川流域機関ネットワーク(NARBO)は、第2回アジア・太平洋水サミットのテクニカル・ワークショップとして第5回NARBO総会とサミットのテーマに関係したワークショップを行ったほか、サミットの公式行事であるフォーカスエリア・セッションにも参加しました。これらの議論の成果は、サミッ

トの成果文書である「チェンマイ宣言」に反映されています。さらに、ブダペスト水サミットの成果文書においてもNARBOが主張した「現場で実務にあたっている者の能力強化の必要性」が反映されています。

このような流れの中で、当機構は総合水資源管理の実務者の観点からNARBOを通じて意見提言を行い、国際的な議論にも貢献しています。